

群馬菱の実会だより

福島県相馬市「松川浦」方面 親睦旅行のご案内

恒例の菱の実会「秋の親睦旅行」ご案内の季節になりました。今年は、「馬電創立50周年タイムカプセルオープン記念・話題満載の大型バスの旅」を企画いたしました。(旅行参加者には、当日タイムカプセルの中身のお渡しを予定しています)

万障お繰り合わせの上ご参加くださるようご案内申し上げます。詳細は同封のパンフレットをご覧ください。<申込方法> 同封の返信はがきで、9月20日(火)までにお申し込みください。

ホームページからご覧の方は <ここ> をクリックして松川浦の空撮動画をご覧ください。

1. 期 日 : 平成21年10月14日(水)～15日(木) 1泊2日
2. 集 合 : 馬電 正門前 午前8時15分 (途中乗車はありませんのでご了承ください)
3. 宿泊先 : 福島県相馬市松川浦 なぎさの奏(かなで)「夕鶴」0244-38-7111
4. 参加費 : 男性 16,000円、女性 14,000円 (当日徴収させていただきます)

< 1 日 目 >		< 2 日 目 >	
8:30	馬電正門前 出発	8:30	ホテル 出発
昼食・見学	岩代屋敷大王	見学・休憩	浪江・泉田川の鮭狩り
見学・休憩	りょうぜん漬本舗	見学・休憩	かねまん本舗(かまぼこ)
見学・休憩	相馬市・百尺観音	昼食・見学	小名浜・まるかつ本店
見学・休憩	松川浦	17:00着	会社
16:00着	ホテル		

馬電創立50周年

記念フェスティバルとタイムカプセル開封式のご案内

同封にてご案内の通り、来る10月10日(土)、上記記念行事が開催されます。「温故知新」、20年前のタイムカプセル埋設当時を回顧し、旧交を温めるとともに、現役世代へのエールを送る絶好の機会と思っておりますので、ぜひご参集下さるようご案内致します。なお、人数規模把握のために、同封のハガキにて9月20日までに出席を返信下さるようお願いいたします。会員出席者には模擬店金券や抽選券付プログラムが用意される予定です。詳細は、同封のご案内をご覧ください。

(右の写真は一昨年のフェスティバル会場)





平成5年定年退職。少しでも地域のお役に立てばと町内の生涯学習委員、神社総代を務め交流を深めてまいりました。

健康が一番、体力づくりに挑戦、太極拳を始め、16年続けてきました。

中国伝来の武術太極拳、「ゆったりと動き深い呼吸で経路を開き、気の流れを良くする」、種とも拳・剣・扇と多彩です。楽しい仲間との練習、各地交流会出席、年なりに頑張っています。

平成21年7月吉日

白井 敬郎



第42回 ゴルフ愛好会コンペ報告



順位	氏名	GRS	NET
優勝	小池 利男	79	71.8
準優勝	坂田 修	76	72.4
3位	萩原十四夫	75	72.6
4位	小林 初男	80	72.8
5位	鈴木 清一	85	73.0
6位	大竹 操	84	73.2
7位	高木 和彦	84	73.2
8位	水戸 友康	88	73.6
9位	島田 十助	88	73.6
10位	大橋 浩	88	73.6

8月4日(火)に大間々カントリー倶楽部に於いて、第42回菱の実会ゴルフ大会を実施しました。

前日までは一日雨の予報で今回は合羽を着てのプレーを覚悟していましたが、当日になると予報が良いほうに外れて、朝は曇り空でしたがスタート前には晴れ間も出てきて一寸蒸し暑かったです。まあまあコンディションで実施されました。雨が降らなかったことでスコアメイクできた人が多く20位までの人はグロス88以下で、珍しい現象で竹沢宏さんがグロス74ハンデキャップ+1.2とプラスハンデになってしまったこともありレベルの高い大会でした。そんな中で小池利男さんが激戦を制して2回目の優勝となりました。ご協力に感謝いたします。

次回の大会は'09年10月6日に計画します。

【 雑記帳 】

【 ウイズ・エイジング 】

朝日新聞7月11日付天声人語で、いい言葉を見つけました。「ウイズ・エイジング」。切り取って紹介させていただきます。年を取るのも悪くない。使い込むにつれ 深い味も出てくる。「老いとともに」

鍋にせよ万年筆にせよ、使い込んだ道具には、体の一部になったような安定がある。愛着もわく。同じことが「人生」にも言えるようだ。作家の田辺聖子さんが老いの日々を、「人生そのものが、よく使い込んで身に合ってきた」と書いている(『楽老抄』)▼六十路の後半の一文である。その年の夏には、もらったうちわに「老いぬればメッキもはげて 生きやすし」としたためたそう。老いと道づれ、あるがままにという、人生の達人らしい肩の力の抜けようがいい▼それに一脈通じよう、「ウイズ・エイジング」という考え方を先ごろの小紙で知った。加齢に抗する「アンチ・エイジング」の逆で、訳せば「老いとともに」となる。高齢医学が専門の杏林大教授、鳥羽研二さんが提唱している▼若さは素晴らしい。だが年を取るのも悪くない。顔のしわは年輪の証し。記憶力は衰えても、季節や身辺への感性はむしろ豊かになる。鳥羽さんによれば、70歳の言葉は20代の2倍以上もあるのだという▼「厚顔可憐の老境は はじめてきたが おもしろい……」。90歳になった漫画家やなせたかしさんは、近著の『たそがれ詩集』(かまくら春秋社)につづる。老化をむやみに嫌ったり落胆したりせず、かといって背も向けない。鳥羽さんの理念に通じるものがある▼一つの言葉から膨らむイメージがある。「アンチ」と尖らぬ「ウイズ・エイジング」の穏やかさは、深まりゆく人生への敬意も呼びさます。高齢社会のきびしい現実の中でこそ、広まってほしい言葉である。

天声人語

鍋にせよ万年筆にせよ、使い込んだ道具には、体の一部になったような安定がある。愛着もわく。同じことが「人生」にも言えるようだ。作家の田辺聖子さんが老いの日々を、「人生そのものが、よく使い込んで身に合ってきた」と書いている(『楽老抄』)▼六十路の後半の一文である。その年の夏には、もらったうちわに「老いぬればメッキもはげて 生きやすし」としたためたそう。老いと道づれ、あるがままにという、人生の達人らしい肩の力の抜けようがいい▼それに一脈通じよう、「ウイズ・エイジング」という考え方を先ごろの小紙で知った。加齢に抗する「アンチ・エイジング」の逆で、訳せば「老いとともに」となる。高齢医学が専門の杏林大教授、鳥羽研二さんが提唱している▼若さは素晴らしい。だが年を取るのも悪くない。顔のしわは年輪の証し。記憶力は衰えても、季節や身辺への感性はむしろ豊かになる。鳥羽さんによれば、70歳の言葉は20代の2倍以上もあるのだという▼「厚顔可憐の老境は はじめてきたが おもしろい……」。90歳になった漫画家やなせたかしさんは、近著の『たそがれ詩集』(かまくら春秋社)につづる。老化をむやみに嫌ったり落胆したりせず、かといって背も向けない。鳥羽さんの理念に通じるものがある▼一つの言葉から膨らむイメージがある。「アンチ」と尖らぬ「ウイズ・エイジング」の穏やかさは、深まりゆく人生への敬意も呼びさます。高齢社会のきびしい現実の中でこそ、広まってほしい言葉である。

「無理しない、こだわりすぎない、よくばらない、つつばらない、頃合いに、融通をきかせる、ほどほどに……いいかげんがいい。先のことを憂うより、今を楽しんで生きる。お金や地位より、いい人間関係。自分を生かせる場を持つことが大事……」 鎌田 實 著書より (篠崎 記)

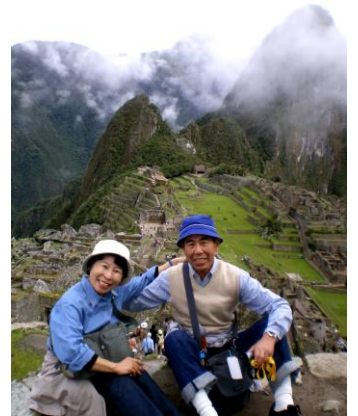
【 会員投稿 】 謎のインカ帝国 : ペルー旅行記 (3) 大槻伸次

<5 日目> 宿泊地のクスコから、今回の旅のハイライトである空中都市マチュピチュへ。バスとペルーレール鉄道を乗り継いで行く予定ですが、乗車駅であるオリヤンタイタンボ駅へ通じる道路が、農民デモにより閉鎖されているとの情報があるため、安全を期して「寝起きを襲う作戦」で行くと告げられる。

要するに農民が寝ているうちに出発し、バリケードを突破する作戦である。そこで、深夜 2 時半に叩き起され、暗闇のアンデス山中を 2 台の小型バスに分乗し、オリヤンタイタンボ駅へ向った。幸いバリケードは突破することが出来た。

【写真はマチュピチュ遺跡をバックに】

マチュピチュへは、ここオリヤンタイタンボ駅から鉄道で 1 時間半程度。列車は「ビストロ・ドーム号」という素晴らしい展望車。アンデス山中の聖なる谷を流れるウルバンバ川沿いを、ゆっくり(時速 30~40 キロ)としたスピードで、景色とブランチを楽しみながらの素晴らしい鉄道の旅でした。登山口のアグアス・カリエンテス駅から、マチュピチュへはマイクロバスに乗り換え、ハイラム・ビンガム・ロード(約 30 分・米国の歴史学者の名前から)と呼ばれる日光いろは坂のような道路を駆け上がる。



マチュピチュの入り口のゲートからしばし上り坂。マチュピチュ(ケチュア語で老いた山)は 2,400m ですから息苦しさはない。上りきったところ、ポスターやテレビでおなじみの空中都市マチュピチュの全貌が目の前に展開するのです。

石の街並みの後方には、守護神のようにそびえるワイナピチュ(ケチュア語で若い山の意)。そのなんとも神秘的な眺望に接していると、自分がここにいる不思議さを思ってしまう。妻は、ここでハーモニカを吹きたいというので応援する。居合わせた人たちの拍手に自分ごとのように感激。何故、この場所にこのような都市を建設したのか諸説あるが、「インカ帝国の 9 代皇帝パチャクティの離宮」として利用されたというのが一番有力のようです。またここマチュピチュの断崖絶壁に作られた段々畑は、下流のウルバンバ川の肥沃な土を運びあげたとのこと。棚畑の下には聖なる谷を流れるウルバンバ川が見下ろせます。なぜして、どうしてこんな場所にこれだけの街を作ったのだろうか? やっぱり謎ですねー。

インカ帝国の全盛期は、広大な領土と石組みの技術を始めとする素晴らしい文明を持った大帝国でしたが、残念ながらインカ文明は文字を持っていなかったため、なんの文献も残っていないのだそうです。約 5 時間の滞在、マチュピチュの幻想的な世界に別れをつけ、再度ビストロ・ドーム号に乗りクスコへ。クスコへは 2,400 m から 3,400m への上り坂です。列車内では、食事と車内販売のファッションショーを楽しみながら 1 時間半余りでオリヤンタイタンボ駅へ。バスに乗り換え 1 時間半、クスコ市街の夜景を見ながらホテルへ到着。

「おもしろ国語」

194 春日井市 岩田 尚之

いつだったか、「ほあけほのちいあ」なる輩が「おもしろ算数」なるものを投稿していた。今回は、小生も向こうをはって「おもしろ国語」をご紹介させていただく。

「子」の字を 18 並べた次の文章? これを何と読みますか。読めますか。

「子子子子 子 子子子 子子子子子 子 子子子子」

ヒントは、「子」を、「こ、ず、の、ね、み」の 5 とおりに読み分けます。

正解は、群馬菱の実だより にこれが掲載された次月号でお知らせします。

(それを待って編集委員さんへ投稿します。)

正解者には、当局より、世界一周旅行券が用意されるかも知れませんが、がんばって挑戦してください。多分 正解されるのは、文学に蘊蓄ありよく会員投稿されるあのお方お一人かも知れません。

訃報



銀山 嘉夫 さん (太田市小角田町 享年 80 歳)

8月1日ご逝去されました。ご冥福をお祈りすると共に、お知らせします。

